

1 学校教育目標

本校の綱領「自己を知り、自己に培い、社会を知り、社会を愛せ」に基づいて、自ら目標を持って学ぶ力を養うとともに、知・徳・体の調和した、こころ豊かで自立した人間の育成を目指す。

2 重点目標

ア 第3期「ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画)」の基本理念「兵庫が育むこころ豊かで自立する人づくり」の実践に向け、生徒の学びを支える仕組みの確立を図りながら未来への道を切り拓く力を育む。

イ 文部科学省の令和元年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」の指定を受け、持続可能なふるさとづくりのための人づくりを推進する。平成30年度より導入した「観光・グローバル類型」(全県から生徒募集)と「地域探究類型」では、生野銀山や竹田城など観光資源豊かな朝来市にある本校から、グローバルな視点とともに地域の魅力を伝えられる発信力を持った人材や地域の課題解決に向けた提案ができる人材を育成する。

ウ 「自ら考え、未来を切り拓いていくことができる生徒」「地域を愛し、地域の担い手となる生徒」「グローバルな視点を持ち、自らの言葉で語る事が出来る生徒」を育成する。

4 学校関係者評価

①・挨拶や通学マナーも良いと思います。学校終了後の電車・バス・迎えまでの時間を過ごせる工夫ができれば・・・(時刻表とリンクしておらず不便であると聞きます)
 ・何列にも広がって通学していた場面があり指導したとあるが、その後どのような結果になったのでしょうか。改善されたのでしょうか。
 ②・コロナ禍にもかかわらず、出来る手段を活用して、積極的に学ぼうと努力されています。 ・部活動、文化祭、体育祭など生徒の人数が少なくなり大変だを思います。地域も含めての活動も必要なのでは。 ・学校の特徴を出すために課題解決型の学び、探究活動の推進は重要なことで、この強化・充実によって生徒を伸ばして欲しい。
 ③・SNSやスマホ利用での誹謗中傷や危険なサイトの利用など、今後も注意喚起をお願いします。 ・地域も含めて人の権利や少子高齢化、人権等を学ぶ場を設けてはと思います。
 ④・なぜ自分たちが勉強するのかを理解してもらうことは、とても大切だと思います。理解したら今後のやる気に繋がると思うので、今後も続けて欲しい。
 ・家庭学習の定着は大きな成果だと思います。質問に来る生徒への対応も時間をさいてくださり感謝です。一方で行動にうつせない生徒もいるはずなので、声かけをお願いします。
 ・家庭学習の習慣を増やし、リモートの多様な機会を活用して頂きたい。 ・スタディサブリの選択制や自分で学びたい科目が選べ、それが学べる環境づくりも大切なかと思いました。
 ⑤・進路を早くに決めるのが理想ですが、途中でも変更が出来る、少ない生徒だからこそ希望の進路に進める環境づくりが大切なのではないかと思います。 ・指定校推薦に恵まれた生野高校のメリットを生徒募集に活用して欲しい。 ・卒業生と在校生との対話の場を設けることは、すばらしいことだと思います。身近な先輩が、仕事内容だったり必要な資格だったり明確なビジョンが描けると思います。 ・進学ありきの指導ではなく、働くことの尊さや地元企業への見学ツアー企画などおもしろいかもかもしれません。ここ何年か就職希望者が少なく、企業側も苦労しています。
 ⑥・視覚で記憶に残る教材づくり、体験を通じて印象に残すこと、とても重要と感じます。体験を通じて感じたことはとても役立ちますね。 ・教職員の方は頑張っておられると思います。生徒に寄り添い、時には厳しく指導をお願いします。 ・県教委の統合計画が出される中、より一層生野高校の状況改善に努力されたい。
 ⑦・生徒さんの変化を逃さず対応して欲しい。 ・人口減少や生徒数が少ない中で、地域とつながりを持つことは重要と感じます。「ゆめいく」だからこそ出来ることを探究し、学校の魅力を発信し続けてください。 ・人権や著作権、プライバシーの問題があると思いますが、ホームページ等で写真をふまえて行事が報告されており、良いと思います。 ・生高通信が回覧され、地域の理解が深まった。 ・地域課題探究に取り組む姿勢は、多くの住民に好意的に受け入れられるので、地域とともに歩む学校になっていただきたい。
 ⑧・コロナ対策などに努力された。 ・生徒さん一番であって欲しい。 ・災害や事故に対する危機感を持てるよう、体験談や映像を通じて意識を高めて欲しい。環境や設備の整備、ありがとうございます。 ・食堂の利用もでき、健康面でも安心安全になればと思います。また、SNSやスマホなどでの投稿によるいじめがないか気になります。
 ⑨・学校閉庁日を増やしたり、年休を積極的に取っていただき、働きがいのある学校にしてください。 ・オン・オフの切り替え。社会人になったとき、その必要性を感じると思います。しっかり休息して活力へつなげてください。 ・モチベーションを常に保っていただき、メリハリをつけて頂きたい。 ・先生のリフレッシュが大事です。

3 学校自己評価結果(5…よくできた 4…できた 3…どちらともいえない 2…あまりできなかった 1…できなかった)

分野	評価内容	R3	R2	R1	学校の取り組み状況・改善の方策
①基本的な生活習慣の確立	・挨拶の励行、交通マナーの向上など社会性の育成や、基本的な生活習慣の確立	3.7	4.0	4.2	・生徒の登校時、昇降口での挨拶の励行と同時に服装・健康状態の確認に取り組んだ。 ・時間を確認して行動することや5分前集合などを徹底した。 ・全教員による通学マナー指導を実施しているが、交通量が少ない道路で何列にも広がって通学している場面が見られ、指導したことがあった。多くの生徒は基本的な生活習慣は確立しているものと思われる。 ・職員室に用があってやってくる生徒のあいさつに対して、可能な限り全てに返答するよう努めた。
②自ら目標を持って学ぶ力の育成	・目的意識を持った学校生活や行事への取り組み	3.9	3.9	4.2	・縮小された文化祭・体育祭・ゆめいく関連の行事どれも素晴らしかった。 ・部活動も人数が少ない中でよくやっていると思う。助っ人で助け合いできているのも良い。 ・探究活動においてもフィールドワークの実施やプレゼンの仕方など多くの能力が身に付いたと思う。
	・課題解決型の学び、探究活動の推進	4.0	4.3	4.8	・第3回但馬地区高校生フォーラムに向けて、生徒主体的学習を促した。生徒数の減少に伴い、部活動数の見直しが必要になってくると思われる。 ・ゆめいくなどで課題解決型の学び、探求活動の推進ができていたと感じる。
	・部活動の活性化	2.9	3.1	3.6	・選択授業では、「なぜ」を持つように常に声掛けをした。「なぜ」を考えることで、得られる情報を吸収するだけでなく、知識を深めることができる。進路意識を高めるため、 ・選択授業を使って「将来の夢」を考えさせた。その将来の夢に向かって、今必要な事、次に必要なことを考えさせた。
③人づくりの基盤としての道徳性の育成	・人権HRを通した人権意識の高揚	3.3	3.9	3.8	・人権HRの研究授業を実施し、人権委に対する意識を高められた。 ・SNS利用・スマホ利用について適切な指導に取り組んだ。 ・人権HRのみならず、教育活動のあらゆる場面で配慮できている。 ・女性の働く権利、高齢者の働く権利、人種や障害で活躍できる権利をうばうことはできないなど、映画を通して学ぶ機会を設けた。学年集会で人権を意識したHRを行った。
④主体的に学ぶ態度や学習習慣の育成	・家庭学習習慣及び自ら学ぶ姿勢の確立	2.9	2.2	2.2	・スタディサブリで課題を配信し、家庭で学習する習慣を身に付けるよう促した。 ・週末課題等により家庭学習の定着を図ることが出来た。 ・宿題に関するやりとりを授業内で十分に扱えなかった。 ・質問に来る生徒に対して、常に扉を開いていた。授業開始前、授業開始後、休み時間、放課後… ・週末課題を出し、その内容に基づいた帯活動を授業内に取り入れることによって週末課題をやる意義を生徒たちに理解させた。その結果、検定試験の合格者数増加にもつながった。
⑤進路希望の実現	・進路実現のためのカリキュラム設定	3.4	3.5	3.5	・生徒自身ゴールが分かっていない人が多いので、進路HRや講演会を全校生徒対象にするのも良いと思う。 ・ゆめいくの中で自己の進路を考える機会を持つことが出来た。 ・将来の卒業後の進路について考える機会を設け、高校3年間で何をすべきなのかを把握できるようなカリキュラムを設定した。 ・推薦等で就職、進学した卒業生との対話の場があると、在学中に必要な事や卒業後に必要なことが見えてくると思う。
	・進路指導の充実及び家庭への適切な進路情報の提供	3.4	3.7	3.6	・小規模校の特性を生かして、生徒一人一人の進路実現のために職員が情報を共有し、分掌の垣根を越えて共に取り組む雰囲気はあるが、現在過渡期であるカリキュラム編成については慎重な検討がさらに必要である。 ・12月以降の一般入試向けの特別時間割を復活させることにより、頑張ろうとしている生徒が安心して入試に向けて頑張ることのできる環境を作った。 ・3年生の夏の面談を7月に就職や専門学校、大学の総合選抜入試希望対象、8月に指定校推薦、公募推薦、一般入試を考えている生徒向けに実施することで、適切な時期に十分な情報を与えられるように工夫した。
	・キャリア教育の推進	3.6	3.7	3.6	・生野高校としての進路指導についてのノウハウを継承するために、今年度進路指導に関わった教員が全体に本校の生徒の学力の3年間の推移と最終進路先を示しながら、本年度の入試について情報共有する場を設けることによって、学校全体として見通しを持った進路指導につなげることができる。
⑥教職員の資質の向上	・授業の工夫改善及びわかりやすい授業の確立	3.9	3.8	3.9	・学校内で研究授業があったのが良い取り組みだと思う。もう1・2回あっても良いと思う。 ・ICTを活用した研究授業を参観し、自分の授業で取り入れられるか考えたり、ワークシートを活用したり、生徒の活動で学べるような授業づくりに努めた。若手教員を中心にICT活用授業に取り組める教員が増加しており、わかりやすい授業の確立に繋がっている。 ICTを使った授業に長けている方が大勢いらっしゃり、さまざまなアドバイスを頂くことができた。そのかいもあって、オンライン交流を通して、学校外で活躍する方々のお話を聞かせることができた。 ・視覚で記憶に残る教材づくりや、実験・観察による体験の機会をつくるなど、生徒の印象に残るような工夫をした。 ・職員研修、授業見学等を通して改善や工夫するための機会を設けることができている。職員の授業の相互見学やそれに関する協議の場などが設定されるなど、授業改善に向けた態勢は整いつつある。
⑦開かれた学校づくり	・家庭への連絡及び情報の積極的提供	3.9	4.2	4.2	・保護者との連絡を適宜行ったり、三者面談で情報共有を行った。 ・学級通信を発行したり、小テや考査の結果をまとめて持ち帰らせたり、学校生活が保護者に伝わるよう工夫した。 ・「はなまる連絡帳」が有効に機能していた。ホームページや、はなまる連絡帳を利用して、情報発信することができた。
	・地域との連携を図った行事の実施	3.6	3.4	3.3	・フィールドワークを通して、地域との繋がりを持つことが出来た。コンソーシアムIKUNO協議会構成員の協力により、探究活動「ゆめいく」の1年生に対する助言指導をオンラインでしていたくなど、コロナ禍で本来の方法でできないものに対しても、実施方法を変更しながら実施できた。 ・家庭への連絡については、生徒を通してプリントを配布するだけでは不十分な場面もあり、常に慎重かつ丁寧に扱うよう注意する必要がある。指導を行った時だけでなく、欠席や何か様子の変化があった場合には、できる限りその日のうちに家庭連絡を行い情報共有を行った。
⑧安全安心な学校生活	・校内の環境整備の適切な実施	3.8	3.7	3.8	・避難訓練を年1ではなく何回もする必要があると思う。(抜き打ちも含め、あらゆるケースを想定して) ・感染症や熱中症の発生を予防するための取り組みに注力した。
	・防災や生徒の安全への配慮	3.8	3.7	3.6	・生徒との面談を行ったり、スクールカウンセラーを活用するなど、生徒の状況把握に努めた。 ・普段から生徒の小さな変化に気づけるよう声かけを多くしている。
	・生徒の心身の状況把握及びいじめ等の予防への対処	3.9	3.9	3.7	・校内の環境はよくなっていると感じる。幾つかの教室に空調設備が増設された。生徒用ロッカーが完備された。種々の工事を実施しより良い環境を作ることができている。 ・多様な生徒が増えているので、配慮やその連絡等はしっかりとできています。学期ごとにいじめ調査アンケートを実施し、生徒からの意見が出た際には、委員会を開き学校全体で対処した。
⑨働きがいのある学校づくり	・ワーク・ライフ・バランスや働きがいのある職場づくり	3.5	3.3	-	・自分の時間が多く持てた。 ・職員同士で情報共有を行うようにした。 ・仕事の優先順位を考え、時間を上手く使えるようにした。 ・8月13.14日を学校閉庁日に設定した。 ・効率よく業務にあたるよう、見通しを建てるのが重要。小規模校で職員の人員が少ないため、一人ひとりの負担が多くなってしまっており、残業なども多くなってしまっている。 ・小規模校ゆえの職員数の少なさを、互いに協力することで乗り切っていく協調の雰囲気があるのは貴重である。意識して年休をとるようにした。 ・教職員の協働により働きがいのある職場づくりはできている。